

公共交通の利用促進・機能強化に向けた要望

令和4年 2月24日

岡山商工会議所

岡山市長 大森 雅夫 様

長引くコロナ禍によって、地域の多くの中小・小規模事業者が、大変厳しい経営環境にさらされております。昨年12月に、(一社)岡山県商工会議所連合会が実施したアンケート調査においても、飲食業をはじめとして、コロナ前と比べた売上回復は極めて限定的となっており、今後、原材料費の高騰や融資の返済負担なども相まって、多くの事業者が事業継続のさらなる困難に直面する事態になることを強く懸念しております。

こうしたなか、岡山市において昨年11・12月に実施された「路線バス・路面電車の運賃無料DAY」は、公共交通の利用者数、大型商業施設の来店者数がともに大幅に増加し、市内中心部の通行人数や滞在人数も増加するなど、コロナ禍等で疲弊した交通事業者を支援するとともに、人の回遊性を生み出すことで需要を喚起し、地域活性化にも寄与した事業であったと高く評価しております。また、岡山市民が、公共交通の利便性を再確認する絶好の機会ともなったと考えております。

岡山商工会議所は、昨年3月に発表したまちづくり提言書「持続可能な健やかさと豊かさを 日本一住みたい『ウェルビーイングな都市(まち)』おかやまへ」のなかで、「1kmスクエア」を「公共交通・公共空間」最優先エリアに位置付け、今後とも、歩いて楽しいまちづくりを進めていくこととしております。折しも県庁通りの一車線化や、来年9月に予定されている岡山芸術創造劇場の開業などにより、歩行者にとって快適な道路空間の創出に向けた機運が高まるなか、ポストコロナを見据え、カーボンニュートラルの推進の視点からも、公共交通の一層の利用促進を目指していく所存です。

また、岡山市全域を魅力的で、人々が移動しやすいまちとするためには、中心市街地を中心としたコンパクトシティ化とともに、郊外ハ

ブ拠点とのネットワーク化が、市民交流の視点から必要不可欠と考えております。こうした考え方は、岡山市の第六次総合計画でも将来の都市の形として示されている「マスカット型都市構造」の考え方と、軌を一にするものであり、実現するにあたっては、中心市街地と郊外ハブ拠点を結ぶ公共交通ネットワークの構築と機能強化が重要となってまいります。

加えて、公共交通の利用促進・機能強化は、温室効果ガスの排出削減によって「2050年カーボンニュートラル」の実現にも寄与するものであり、SDGsの考え方に基づく持続可能なまちづくりを進めていく観点からも意義深いものと考えております。

つきましては、公共交通の利用促進・機能強化について、下記のとおり要望いたしますので、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 「路線バス・路面電車の運賃無料DAY」を始めとした公共交通の利用促進策を積極的かつ継続的に実施することにより、コロナ禍に苦しむ事業者支援のための需要を喚起していただきたい。また、SDGsを推進する観点から公共交通の利用推進の機運を盛り上げ、中心市街地（まちなか）の活性化を図っていただきたい。
2. 中長期的には、中心市街地（まちなか）と郊外ハブ拠点を結ぶ広域交通網の維持や機能強化を図ることにより、あらゆる年代の人々が安全に安心してアクティブに行動できる公共交通ネットワークを構築していただきたい。さらには、ハブ拠点から居住地までを結ぶデマンドタクシーの整備や、自動運転EV等の最新技術の導入に向けた実証実験の検討など、将来の岡山市の公共交通体系構築にも取り組んでいただきたい。

以 上

令和4年 2月24日

岡山商工会議所

会 頭 松 田 久

副会頭 高 谷 昌 宏

都市交通委員長 黒 瀬 仁 志